KODOMO NO SIRO NEWS
こどもの城ニュース

1994・8・1 増刊号
発行／(こどもの城)広報部 ☎03-3797-5666
〒150 東京都渋谷区神宮前5-53-1

▲発足パーティで祝辞を述べる井出厚生大臣

明るい未来を目指して

こども未来財団発足

子どもたちの明るい未来を目指して、(財)こども未来財団が発足しました。未来の社会の担い手である子どもたちの健やかな成長を支えるために必要な事業を行うところです。

官民が一体になって作った財団で、今までの公的なサービスでは対応しきれない、きめ細かなサービスをしていきます。特に、働いている人々を中心とした子育て家庭のニーズに応え、子どもの健全な育成と、活力ある社会の維持・発展をめざします。会長は永野健日本経営者団体連盟会長、理事長は上村一東京厚生年金会館館長。

仕事と育児の両立を支える良質な保育サービスへの助成、母親の育児を側面から手助けする休日相談や児童関連情報24時間ネットワーク作り、児童福祉ボランティアが活動しやすい環境作り、児童福祉の啓発普及・国際協力事業などが主な事業です。「国際家族年」の今年は、それに関連した記念事業も行います。

国際家族年記念

家族芸術祭「地球は家族」展

今年は〈国際家族年〉。「家族からはじまる　小さなデモクラシー(Building the smallest democracy at the heart of society)」をスローガンに、世界中でさまざまな活動が行われています。〔こどもの城〕では、厚生省、(財)こども未来財団と共催で、9月から来年1月にかけて、4つの柱で構成される国際家族年記念家族芸術祭「地球は家族」展を開催します。

はがきにのせた、わたしの家族。家族・はがきアート展(公募)

12月3日～1月8日

あなたにとって〈家族〉って何ですか？　あなたの思いをはがきにのせて〔こどもの城〕までおくってください――「はがき」という身近な通信手段を利用した〈家族〉をテーマとした〝アート展〟を開催します。子どもから高齢者までを対象とした公募作品と招待作家の作品を併せて展示します。

それぞれの〈家族観〉などを1枚のはがきの上に表現して〔こどもの城〕家族芸術祭事務局に送ってください。

わたしの考えている〈家族〉と、あなたの考えている〈家族〉――同じかもしれないし、異なるかも知れません。「家族・はがきアート展(公募)」で、いろいろな〈家族〉と出合うことができると思います。

応募方法

【テーマ】「家族」――「はがき」に家族観、家庭観、自分から見た家族、自分の理想の家族像、家族の役割などを表現してください。

【作品サイズ・素材・技法】官製はがき、またはそれと同等のもの。素材・技法については特に限定はありません。ただし、普通郵便で郵送可能なものに限ります(写真・絵画・版画・浮き彫りなど)。

【応募点数】1人1点(未発表のもの)。

【送付方法】作品はそのまま郵送するか、封筒などに入れて郵送してください。なお、はがきの表面下部に住所・氏名・年齢(学年)・電話番号・職業(学校名)・タイトルおよび50字以内のコメントをつけてください。

【募集期間】平成6年9月15日まで(当日消印有効)

【選考委員賞】選考委員の方がそれぞれ選んだ作品に対して、記念品を贈呈します。

【発表】選考委員賞の発表は、記念品の発送をもって代えさせていただきます。

【展示期間】12月3日～1月8日。〔こどもの城〕1階ギャラリー(月曜日・年末年始休館、入場無料)。

※原則として、応募作品はすべて展示。また、招待作家の作品も展示されます。

【作品の返却】応募作品はお返ししません。作品の著作権は〔こどもの城〕に委託させていただきます。

【送付および問い合わせ先】〒150東京都渋谷区神宮前5-53-1〔こどもの城〕家族芸術祭事務局☎03-3797-5665。

田沼武能の写真による「世界の子どもと家族」写真展

9月10日～10月10日

生き生きと生活している子どもの日常的な姿を追求している写真家として国の内外から高い評価をえている田沼武能さんが撮影した写真の中から、〈子ども〉と〈家族〉を中心に約130点を選んで構成する写真展。子どもから大人まで分かりやすく、親しみやすいように、それぞれの写真に簡単な説明をつけて展示します。

社会生活の最小単位である〈家族〉と、〈家族〉の小さな構成員である〈子ども〉の真実の姿が、国や習慣の違いをこえて写し出されています。

大地の神に豊作を祈願する家族(ペルー)　©田沼武能

〈家族〉で(大人も子どもも一緒に)参加し、コミュニケーションを図るワークショップを〔こどもの城〕の全館を使って開催します。

〔こどもの城〕では、毎日、参加・体験型のプログラムを行っています。ワークショップもそのひとつで、小さい子ども向けのものから親子で楽しめるものまでいろいろ。

今回、この経験を生かして体育・造形・プレイ・音楽・AV・保育・小児保健などの各分野のプログラムをもとに〈家族〉で参加できるワークショップを特集。同じテーマに取り組み、ものを作ったり、遊んだりすることをとおして、〈家族〉の絆(きずな)を深め、コミュニケーションを図ることができればと思います。

なお、期間中の〔こどもの城〕入館料は無料。

「おやっ！と発見　子と発見！」〔こどもの城〕親子体験ワークショップ

11月1日～3日

全国児童館造形フェスティバル「わたしたちの家族」を表現した共同制作展

10月29日～11月27日

「わたしたちの家族」をテーマに、児童館の日常活動の一環として、子どもたちが共同で制作した造形作品の展覧会。90cm四方のベニア板の上(平面でも、立体でも良い)に、全国の児童館に集まった子どもたちがみんなで考え、みんなで話し合い、みんなで協力して作った作品が展示されます。未来を担う子どもたちが考える〈家族〉がいっぱいの造形フェスティバルです。

※〈家族・はがきアート展〉〈全国児童館造形フェスティバル〉〈「世界の子どもと家族」写真展〉の3プログラムは全国を巡回します。

国際家族年記念事業 家族芸術祭は、こどもの城で開催します。

(各催しのお問い合わせは、こどもの城 家族芸術祭事務局へ　〒150東京都渋谷区神宮前5-53-1 ☎03-3797-5665)

国の助成を受け今年度から

〈動くこどもの城〉スタート

〔こどもの城〕の事業を全国各地で巡回実施

全国の子どもたちに〔こどもの城〕のプログラムを体験してもらうと同時に、全国の健全育成に携わる人に〔こどもの城〕の持っているノウハウを公開し、その活動に役立ててもらおうと、国の助成を受けて、このほど〈動くこどもの城〉がスタートしました。

昭和60年11月に開館してから現在まで、体育・造形・プレイ・AV・音楽・保育・小児保健・劇場など幅広い分野にわたってさまざまなプログラムを行い、その中で蓄積したきたノウハウが〔こどもの城〕にはたくさんあります。

「常に先駆的で実験的なプログラムを企画、実践し、全国に普及していくこと」を運営の基本のひとつにして、〔こどもの城〕は活動をしてきました。来年の11月には10年の節目を迎えようとしています。

開館してから現在まで、体育、造形、プレイ、音楽、AV、保育、小児保健、劇場など幅広い分野でさまざまな試みが行われてきました。着実に成長を続け成果を上げているプログラムもあれば、手直しが必要になり途中で一休みしているものもあります。しかし、どちらにしても、貴重な経験を積み重ねてきたことは確かです。

〔こどもの城〕で行ってきたさまざまなプログラムと、それを企画・実施するためのノウハウを全国の健全育成に携わる人々に知ってもらおうと、国の助成を受けて今年度から〈動くこどもの城〉がスタートしました。

〈動くこどもの城〉には、子どもたちや家族を対象とした活動と児童厚生員など、子どもたちを指導する人たちを対象とした活動の２つの柱があります。

子どもたちや家族を対象とした活動では、〔こどもの城〕で開発してきたさまざまなプログラムを各地の児童館やホールなどで実施します。いわば〔こどもの城〕のプログラムの〝出前〟です。

▲巡回実技研修では、スタッフとのディスカッションも
（写真は児童厚生員等実技指導講習会から）

音楽の楽しいコンサート、造形の作品パネル展、ビデオを利用したアニメーション作りのワークショップなどがあります（別記）。

児童厚生員などを対象とした活動は、プログラムの企画意図やそれを実行に移すためにさまざまなノウハウを紹介し、各児童館などに適した内容に発展させることがねらい。実技指導のデモンストレーションと、スタッフとのディスカッションを中心とした研修会で構成されています。〔こどもの城〕のノウハウを土台にして、地域に適した実際的なプログラムを考えようというものです（別記）。

「実施にあたっては、受け入れ団体との協議が必要になります。プログラムをただ“出前”するのでなく、“出前”した料理（プログラム）がどのように作られているか、自分好みの味付けにするにはどうしたら良いかなどを考えるためのものだからです」と〈動くこどもの城〉の事務局。

経費については、原則として〔こどもの城〕が負担します。ただし、実施場所の会場費などについては、受け入れ側の団体の負担となります。

「今後は、国立の児童総合センターとしての機能の発展に努めると同時に、〔こどもの城〕の持っているさまざまなノウハウを紹介するなど、全国の児童厚生員など児童の健全育成に携わる人たちとの交流・情報交換を進めていきたいと考えています」

〈動くこどもの城〉の詳細については、下記までお問い合わせください。

【〒150　東京都渋谷区神宮前5-53-1　こどもの城・〈動くこどもの城〉事務局☎03-3797-5665】

児童厚生員などを対象とした活動

〈動くこどもの城〉の児童厚生員などの指導者を対象としたプログラム。プログラム開発の背景や主旨、実施にいたるまでの準備の過程を紹介し、各地の児童館などでプログラム作りの参考にしてもらおうというものです。

『アニメ・ワークショップ』

映像作品を鑑賞するだけでなく、遊びをとおして〈動く映像〉を作り、映像の仕組みや基本的な原理を理解させるためのワークショップです。

『造形ワークショップ：プログラム講習会』

素材・発想・技法などを組み合わせると、さまざまな造形プログラムが生まれます。ほんの少し発想を変えるだけで、新しい可能性が広がります。

いくつかのプログラムを参加者と体験制作して、それが生まれた考え方や発想法について意見交換します。

『手作り楽器のワークショップ』

楽器というのは、音楽の演奏に使ってはじめて、楽器の役割を果たします。空き缶などを使った手作り楽器作りと、それを使ってみんなで演奏するワークショップです。

子どもたちや家族を対象とした活動

〔こどもの城〕で開発してきた、さまざまなプログラムを地域の児童館、市民会館、市民ホールなどで、実際に子どもや家族のみなんさんに体験してもらおうというもので、〈動くこどもの城〉の大きな柱のひとつです。

試行錯誤を重ねて、練り上げてきた〈あそび〉のプログラムをとおして、豊かな感性や創造性を育てていきます。AV、造形、音楽などユニークな内容のものがそろっています。主なプログラムのいくつかを紹介します。

造形プログラム

『造形ワークショップ展』

「紙」や「木」、「土」などを素材ごとに取り上げた〈素材との出会い展〉、「音」や「光」などをテーマにした〈造形発見展〉――〔こどもの城〕造形事業部では、さまざまな視点からプログラムを考え、実施してきました。既成概念にとらわれない新鮮な発想による、子どものための造形活動です。

『造形ワークショップ展』では、子どもたちが制作した作品をもとに構成された、B全判のパネル（それぞれのプログラムの意図や内容の説明のついたもの）を展示します。作品や制作物を見せるだけの展示ではなく、「子どもたちが制作する過程での体験が大切である」という考え方が伝わるように配慮したものです。

展示パネルの中のプログラムをデモンストレーションし、実際に制作体験をすることもできます。ものをつくる喜びを体験するだけでなく、ものをつくることによって体験できる新しい発見や豊かな創造力を養う『ワークショップ展』です。

音楽プログラム

音楽事業部のプログラムは、『おんがくがスキ』と『がらくた楽器コンサート』の2つがあります。どちらも〝音〟をみんなで〝楽しむ〟プログラム。

『おんがくがスキ』

音楽が大好きという3人組のお兄さんによる、楽しい音楽コンサートです。といっても、音楽を聞かせるだけのコンサートではありません。リズム、メロディー、ハーモニーなど音楽のいろいろな要素を、歌遊びや手遊びを盛り込みながら、楽しく、おもしろく、体全体で体験できるようにしたプログラム。

パーカッション（打楽器）、ベース、シンセサイザーのトリオ。おしゃべり太鼓（アフリカン・タムタム）などの珍しい楽器も登場します。目で見て、耳で聴いて、体で感じて、そこに集まった人が一緒になって〝音〟を〝楽しみ〟ます。

『がらくた楽器コンサート』

このコンサートでは、みんなが知っているピアノやギターのような楽器は登場しません。空き缶、植木鉢、フライパン、壺（つぼ）など、およそ音楽と縁のないものが〝楽器〟として登場します。

ものをこすったり、たたいたりすると、音が出ます。たたく場所やたたき方を変えると、違った音がします。〝音楽〟とは思えない〝音〟も、扱い方ひとつで〝音楽〟にすることができます。手作りのがらくた楽器による異色のコンサートです。

AVプログラム

『アニメ・ワークショップ』

優れた映像作品にふれると同時に、遊びをとおして動いて見える映像の不思議、おもしろさを体験するプログラム。子ども向けに作られた内外の秀作アニメーション作品の上映と、簡単な絵を描くことによって作れるアニメーション〝ぱたぱたアニメ〟（２枚の絵を描いて、それをビデオに撮影して、テレビ画面に映し出す）などのワークショップで構成されています。

描いた、動かない絵が、動いて見えるアニメーション。動くのが当たり前と何気なく見ているアニメーションも、よく考えてみると不思議なことです。みんなの描いた絵でも動いて見えるでしょうか？このワークショップでは、簡単な絵を描いて、動いて見える映像作りに挑戦します。

動かないはずの絵が動いて見えた時の驚き、喜びをとおして〈映像〉に親しむプログラムです。併せて上映するアニメーション作品も、動きのおもしろさや表情の豊かさなど、アニメーションならではの表現にあふれた秀作です。**【写真は「ぱたぱたアニメ」の活動風景】**

ボランティアプログラム

『人形劇・パネルシアター』

〔こどもの城〕で活動しているボランティア・リーダーによる人形劇やパネルシアター、大型絵本の読み聞かせなどの公演です。公演の後には、ボランティア活動についての交流も。

▲ボランティアの人形劇

児童の健全育成を進めていくうえで、ボランティアは大きな役割を担っています。〔こどもの城〕でも、開館時からその育成に力を注ぎ、現在さまざまな分野でボランティアが活動しています。

ボランティア・リーダーによる人形劇・パネルシアターも定期的に上演されています。台本や人形、舞台装置もすべて自分たちが作ったもの。子どもたちとのふれあいを大切にしながら、ボランティアならではの人形劇の上演を続けています。〝手作り〟の人形劇・パネルシアターです。

あったぞ
そこに〔こどもの城〕が
びっくり、ぎょうてん
のぼってみたら

●面白楽器商店街
●人形劇見本市
●夏にチャレンジ ハッスルスポーツフェア
●世界の子どもたちⅡ
アジアの仲間とくらし
●パソコンで自然を知ろう

たいした たまげた おどろいた
かぞえきれない かおとかお
らんらん きらきら 目をかがやかせ
じゆうじざいにあそんでる
さにくあそびくの宝島

夏休み特別期間
7月21日(木)～8月31日(水)
開館時間／午前10時～午後5時30分
（入館は午後5時まで）
休館日／7月25日(月)、8月8日(月)、22日(月)
（9月1・2日、5・6日は休館です。）
入館料／こども（3歳以上）300円
おとな400円
〒150　東京都渋谷区神宮前5-53-1
☎ 03-3797-5666 こどもの城

第11回
渋谷スタンプラリー
7月21日（木）～
8月31日（水）
こどもの城、電力館、たばこと塩の博物館、東京都児童会館、五島プラネタリウムを回ってスタンプを集めると、すてきな記念品がもらえます。友だち同士、ご家族みなさんで参加してください。

●造形宝島
●AVライブラリー
●ウオーターアドベンチャー
●作って遊ぼう親子工房
不思議なスタンピング
●こどもの城 映画劇場
すばらしいアニメーションの世界２
●～ゆったり親子の～おんがく園

財団法人　日本児童手当協会
こどもの城